



コロナ禍 における 企業支援 の在り方・手法ゼミ

令和4年2月10日

ちほめんNEWS Vol.8 5

協同組織金融機関実務担当者向けセミナー

主催 財務省 近畿財務局
協力 日本公認会計士協会 近畿会
大阪弁護士会 中小企業支援センター



はじめに

これまでの経緯

当局では、地域金融機関職員を対象として、事業者支援能力の向上を図るセミナー・講座を主催してまいりました。
今回の後期ゼミは、令和3年4～6月に開催された前期ゼミの続編として開催に至りました。※前期ゼミのニュースは[こちら](#)

令和2年1～3月

連続講座開催
(全2回)

「顧客企業に頼られる金融機関になるために～事業性評価とコンサルティング能力向上のための連続講座～」と題し、地域金融機関職員を対象とした対面講座を実施。



令和2年7月

セミナー開催
(オンライン開催)

「WITHコロナ POSTコロナの企業支援の在り方・手法オンラインセミナー“今こそ地域金融機関の使命を発揮するとき”」と題し、オンラインセミナーを実施。



令和3年3月

セミナー開催
(オンライン開催)

「協同組織金融機関の使命とコロナ禍の本業支援」と題し、協同組織金融機関職員を対象としたオンラインセミナーを実施。



令和3年4～6月

R3前期ゼミ開催
(オンライン開催)

「コロナ禍における企業支援の在り方・手法ゼミ」と題し、協同組織金融機関職員を対象としたゼミ形式のオンライン講義を実施。



R3
後期ゼミ
開催

専門家との連携

令和3年6月

シンポジウム「地方創生・中小企業支援」を開催

公認会計士協会近畿会、大阪弁護士会と連携し、関西をもっと元気に！を合言葉に、各分野のプロが「中小企業が活力を取り戻し、力強い経済回復と地域社会の創生を実現するような支援の在り方」についてパネルディスカッションを実施。



シンポジウムにおいて築いた公認会計士協会近畿会・大阪弁護士会との連携を活かし、前期ゼミにおいては、公認会計士・弁護士の先生方にもご協力を賜りました。



第1回

令和3年10月18日（月）

Theme

協同組織金融機関に期待されることは



冒頭、当局理財部長佐藤雄作より、「今回の企画は各金融機関・専門家同士の議論を通じて、知識やノウハウを共有し、互いの連携強化を図るもの。企業支援の具体的事例を共有し、良いところは取り入れていただき、工夫・進化していただきたい。」との発言がありました。



第1部 ディスカッション（30分）



登壇者：水野浩児教授（追手門学院大学経営学部長）（写真左）
橋本卓典氏（共同通信社編集委員）

第1部では、「協同組織金融機関に期待されることは」をテーマに、水野教授と橋本氏にディスカッションいただきました。

金融庁の金融行政方針を読み解きながら、コロナ禍における企業支援の在り方を中心に、ポイントとなる金融人材育成や、公認会計士や弁護士などの専門家との連携の重要性等について活発な議論が展開され、橋本氏からは「中小企業は経営者そのものが企業価値。事業を存続させながら経営者がやりたいことをやれるよう、緻密に事業遂行をフローしていくことが必要。」との考えが述べられました。

本ゼミの目的の一つである【金融機関同士の横の連携】と【専門家と金融機関の連携】を図るため、敢えて時間を割き、グループワーク実施前に、水野教授主導のもと、公認会計士や弁護士の先生方を含め、参加者1人1人による自己紹介を実施。その後のグループワークが円滑に進むきっかけとなりました。



第2部 グループワーク（60分）



協同組織金融機関職員15名が、3グループに分かれ
ウィズコロナの現状・課題についての意見交換を実施。

第2部では、具体的な企業の事例を基に協同組織金融機関としての支援について考察するグループワークを実施しました。

グループワークでは、水野教授、橋本氏のほか公認会計士・弁護士の方々、近畿財務局の金融監督・検査の担当職員も各班の意見交換に参加。参加者それぞれが実際の業務経験も踏まえながら、「取引先がコロナと共存し事業を継続するにはどのような支援が必要か。」「今後増加していくであろう廃業に対してどのように対応していくか。」などといったコロナ禍において企業支援を行う上での課題について意見を交換しました。



第2回

令和3年11月24日（水）

Theme

事業者支援に必要なスキルのポイント



第1部 講義（30分）



『事業者支援に必要なスキルのポイント』
登壇者：水野浩児教授（追手門学院大学経営学部長）

第1部では、「事業者支援に必要なスキルのポイント」をテーマに、事業者支援における協同組織金融機関の役割・中小企業支援における私的整理の枠組みの方向性・専門家との連携の重要性等のテーマについて、水野教授より講義いただきました。



その中で、債権者として債務者の成長に能動的に関与することや中小企業の再生計画づくりにおける公認会計士・弁護士等との連携の重要性について説明がありました。また、アフターコロナの事業者を支え切るためには、職員1人1人のスキル向上が必要である旨発言がありました。



第2部 グループワーク（60分）



協同組織金融機関職員15名が、3グループに分かれ
各自の事例紹介及び意見交換を実施。

第2部では、各自が持ち寄った具体的な企業の支援事例を基に協同組織金融機関としての支援について考察するグループワークを実施しました。各自の事例について概要を紹介後、お互いに事例の深堀を行いました。



各事例に対して、各グループとも、専門家の意見も踏まえながら金融支援・本業支援の両側面から検討を行い、充実した議論が行われました。

グループワーク終了後には各グループの代表者が検討内容の発表を行い、参加者全体での「知の共有」が図られました。



第3回

令和3年12月20日（月）

Theme

これからの協金への期待・協金の在るべき姿

第1部 基調講演



『これからの協金への期待・協金の在るべき姿』

登壇者：金融庁協同組織金融室 室長 松田泰幸



第1部では、松田室長より、金融行政方針及び地域金融機関による事業者支援を後押しする金融庁の施策について説明があり、「コロナを乗り越えるための事業者支援」「ポストコロナを見据えた経営改善・事業再生・事業転換支援」に引き続き取り組んでいただきたいとの発言がありました。



第2部 講義



『コンサルに必要なスキルとロカベンの有効活用』

登壇者：水野浩児教授（追手門学院大学経営学部長）



第2部では、水野教授より、コンサルティングにおけるスキル向上とローカルベンチマークの活用方法をテーマに講義があり、ヒアリングの際の心構えや、財務情報を把握する際のポイントについて実務に即した説明がありました。



第3部 ラウンドテーブル形式での意見交換



協同組織金融機関職員15名と公認会計士及び弁護士が一堂に会し、事例紹介及び意見交換を実施。

第3部では、参加者全員でラウンドテーブル形式による意見交換が行われました。水野教授を中心に、要所要所で共同通信社編集委員 橋本氏や公認会計士・弁護士の方々よりコメント・アドバイスを頂きながら、参加者による活発な議論が展開されました。

具体的には、信用金庫のネットワークを活用したM&Aの事例・事業承継事例・先導的人材マッチング事例について金融支援・本業支援の両面から紹介がありました。そのほか、専門家によるアドバイスを頂くことの有用性、補助金活用のポイント、空き家問題へのアプローチ事例等幅広い内容について言及がありました。

最後に、松田室長より、「日々経営者と深く対話されているからこそ課題が把握できているのであり、まさに職員の皆様の努力の賜物。これからも協同組織金融機関ならではの強み・ネットワークを生かしながら、そうした課題解決に全力を注いでいただきたい。」との発言がありました。



おわりに

今後の展開

本企画の継続開催決定！



皆様から開催希望のお声を多数頂き、
「令和4年度前期 コロナ禍における企業支援の在り方・手法ゼミ」の開催が決定いたしました。



令和4年度前期 コロナ禍における企業支援の在り方・手法ゼミ

第1回目：4月18日（月）/第2回目：5月9日（月）/第3回目：6月13日（月）

次期ゼミにおいても、水野教授を中心に、企業支援のために必要な知識の講義や、参加者による企業支援に関するグループワーク形式でのケーススタディを予定しております。協同組織金融機関ご担当者様同士の横の連携だけでなく、土業をはじめとした他業種との連携を深めていただける機会にもなると考えております。

今回頂戴したアンケートでのご意見を踏まえ、また、地域の様々な方の声を聴き、次の企画に反映していきたいと思っていますので、地域活性化等に関するご要望がございましたら、お気軽に下記へ問い合わせいただければと存じます。

近畿財務局・総務課企画係

TEL：06-6949-6390

✉： kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp

ちほめんNEWSのバックナンバーは、以下URLからご覧になれます。

<https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html>